

## 令和3年度 第3回大阪府立かわち野高等学校 学校運営協議会 記録

日時：令和4年2月7日 15時15分～17時00分

場所：アクティブラーニング室

### 1. 参加者

委員：5名

蛭田会長、中野副会長、森田委員、今井委員、江田委員、小出委員

事務局：13名

校長、教頭、首席2名、事務長、3年学年主任、2年学年主任、1年学年主任、生徒指導部長、教務部長、進路指導部長、企画部長、保健部長、情報主担

### 2. 内容

- ・本校の学校活動状況の報告
- ・「令和3年度 学校評価」と「令和4年度 学校経営計画」の承認

### 3. 報告

#### ① 学校説明会

事務局) 資料はR3学校経営計画 4. 地域に根ざした学校づくりについて。教員が数校の担当中学校をもって、年間通して広報に努めた。学校説明会を3回目まで実施した段階で、前年度までの参加者数を上回っていたが、1月はコロナ禍でやむなく中止となった。代わりに学校説明プレゼンテーションのみYoutube配信を開始した。2月12日の説明会は実施予定である。

#### ② 学校教育自己診断

事務局) 今年度の目標は、「生徒とじっくり対話をする」ことであり、その点についての結果が数値として現れている。

2年生の肯定的回答が落ち込んでいる。この学年が1年生のときも低かったが、そこからすると肯定数は増えているが、さらに肯定的回答を増やすためにはどうしていったら良いのかは検討していくべき課題である。

「学校に行くのが楽しい」が低いのは、学校行事の中止が要因となっている。進路等に関する回答は低くないので、学校行事の大切さがわかる。

#### ③ 各分掌、学年から今年度総括

教務)学校教育自己診断【教職員】の4.教育課程、7.成績評価のあり方など4項目は70%以上の肯定的回答であった。今年度は、観点別学習評価に関する研修等を充実させてきた成果である。

生徒指導)R3学校経営計画3.(2)年間遅刻総数の下回るべき目標値を超えてしまった。コロナが、3年生がなど要因はあるが、怠惰な遅刻は減らしていく必要がある。  
部活動加入率については、コロナ禍で新生入生に対する勧誘が十分できなかったことがあるが、手立てを考えたい。  
懲戒事案の年間概要について。規範意識の崩れは、きちんと指導していきたい。

保健)R3学校経営計画2.(1)教育相談、教育支援については、保健室とも連携しながら充実させることができた。コロナ対策については、昼食時の黙食への呼びかけを生徒が放送している。

進路)専門学校進学が例年より多い。看護系進学は2名で、例年より少ない。個別相談の充実などで進路指導への肯定的回答は多かったが、進路行事実施時の事前指導も含め、充実させていきたい。

企画)図書室の利用率の上昇が見られた。目標値には到達していないが、年次が上がるごとに授業での利用もあり、それを機にして図書室利用に繋がっている。生徒に人気があるコミックなども取り入れながら足を運ぶきっかけとしている。  
PTA活動はコロナ禍の影響で実施したい内容をできてはいないが、学校でのリース作りなどできることから実施した。

3年)16期生は225名で入学し、2年次は208名、現在は195名の在籍となった。定員割れで、学校生活に馴染めない生徒、学力的についていくのが難しい生徒が入学してきたということが原因のひとつ。  
進路については、四年制大学29名(昨年53名)・短大16名(ほぼ変化なし)、専門学校82名(66名)、就職はほぼ変わらず。上級学校に進学して学ぼうという生徒が減ってきている。指定校推薦21名、公募制推薦0名。AO入試は、偏差値51までの学校なら100%合格したが、52はほぼ不合格であった。

2年)修学旅行は延期、変更して実施できたが、体育祭も2年連続経験できず、文化祭も発表会に変更された。卒業後に向けてどのように進路目標を持たせられるかが課題である。

1年)6クラス募集、4クラス150名でスタート。昨年度持っていた15期生と比べて落ち着いているし、行事も切り替えて楽しむことができるが、長欠生徒や落ち着いて学ぶことが難しい生徒もいる。学校教育自己診断の肯定的回答が高いのは、できるときにできることをフットワーク軽く実施してきた成果だと思う(遠足、ミニ運動会、球技大会など)。  
進路についての回答は全体平均より下回っている。学校での分野別説明会が中止されたので、2年次に充実をさせていきたい。

## 質疑応答

委員)有効回答数は90%くらいのようなのだが、例年と比較してどうか。有意差を見るときに必要なだ。

事務局)例年と同じくらいの回答数であるが、保護者に関しては+30件ほどある。

委員)大学進学数が減ったとのことだったが、保護者の進路指導への満足度は低くない。これはどうしてか。

3年)保護者が、生徒の意思を尊重した結果だと思う。

委員)専門学校選択において、将来のビジョンを描いているのだろうか。目的を持っているのなら良いが、就職したくないからではないのか?勉強したくない子が専門学校に行くと、奨学金という借金を抱えて社会に出ることに危惧を覚える。

事務局)高校3年のステップアップ講座を担当している。12名が就職と専門学校、1名が大学進学。「なぜそこを選ぶのか」と問うてきた。マンドラチャートを書かせて見たら、キッチリ書けた。全員がそうであるとはわからないが、意識的に働きかければ、委員のご心配の件も解消されると思う。

委員)ここ2~3年で専門学校受験者の状況は変わってきた。昨年度は共通テストの導入もあって11月までに早く決めたいと思っていたようだ。今年度はコロナの影響で目的意識を見失った大学生が中退して専門学校に入り直していることが目立つ。高校の進路指導が入れば入るほど将来の仕事を見つめて専門学校に入学している。偏差値しか追いかけてこなかった子どもの方が行く先に迷っている。かわち野高校の方針が時代に合っているのかもしれない。少子化でこれまでの概念が崩されていく状況だ。

委員)キャリア教育と進路指導の違いや重なりがわからない中で進路を見つめさせなくてはいけない。中1は仕事の聞き取り、中2は職場体験、中3はかわち野高校での体験授業などを実施している。キャリアパスポートの活用もしている。

「先生の指導は納得できる」とあるが、遅刻が増えている。かつての本校もかなり荒れた時期があったが、教師と生徒の対話を深め、校則の見直しを含めて時代に合わせて変化しつつ、地域連携してきた。この部分はどうか。

事務局) 同じ生徒が重ねて遅刻するので、複数の教員が入って対話を重ね、悩みを聞きとっているが、なかなか改善に繋がらない。ダメなものはダメ、の指導をどう入れていくか。今はアルバイトでさえ遅刻が許され、社会的な責任を学べない時代になっている。保護者もなかなか巻き込めない。学校と保護者の方向性を一致させて指導に生かしていけるようにしたい。

委員) 息子には、家を出るまでは声をかけ続けている。スマホアプリで友人の所在を確認し「友達はまだここにいるから大丈夫」。これでいいのだろうか。監視しあい、友達と一緒になら良い、という風潮が恐ろしい。子どもの同級生の自動車免許や卒業への姿勢を聞くと、保護者が責任を全うしてほしいと感じる。学校任せにしすぎている。卒業を間近にして、自分の子どもに対しても、意思決定を促したいと思う。

#### 4. 協議

委員) すでにR3年度については協議ができたと思う。校長から、R4年度の計画策定について説明いただきたい。

校長) 1. 「確かな学力」は教員の努力が表れている。「社会人基礎力」は、かわち野今後検討PTで2年前から話し合ってきた。スポーツ専門コース、情報技術専門コースそれぞれに将来を見据えた体験的学びを重ねて培ってきた。

「豊かな心の育成」ではSC、SSWとの連携を持ち、チームで当たっている。

令和4年度計画は、中長期計画なので、これまでと大きくは変えていない。「新カリ導入」、「観点別学習評価の運用」、「オンライン授業」をすみやかに実施できるようにしていきたい。特に「オンライン授業」については令和4年度からと言わず、すぐにでも実施できる体制を整えていきたい。

生徒の「特別活動関連の回答」、「オンライン授業」などを重点にして、令和3年度に上昇、達成した目標値は更に上げて掲げたい。

委員) 前例踏襲ではない、非常にチャレンジングな目標値を上げておられる。これで承認とさせていただきます。

以上